資 料 編

資料１．行動目標一覧

１．人と多様な生きものが共生する里山里海の利用保全の推進

No	指標名	基準値	目標値
（１）里山のシンボルであるトキを育む環境づくり			
1	「トキめく能登の未来」米づくり認証制度の認証面積	― （2024年度）	5,000ha （2032年度）
（２）里山里海の資源を活用したビジネスの創出			
2	農家民宿の宿泊者数	4,812人 （2024年度）	20,000人 （2032年度）
3	環境保全型農業の取組面積	9,662ha （2024年度）	18,000ha （2032年度）
（３）里山里海地域の振興			
4 再掲	農家民宿の宿泊者数	4,812人 （2024年度）	20,000人 （2032年度）
（４）多様な主体の参画による新しい里山里海づくり			
5	いしかわ版里山づくりISOの認証団体数	349団体 （2025年度）	400団体 （2030年度）

２．自然を活用した地域づくり・社会課題の解決

No	指標名	基準値	目標値
（１）生物多様性に配慮した農林水産業の振興			
6 再掲	環境保全型農業の取組面積	9,662ha （2024年度）	18,000ha （2032年度）
7	間伐等実施面積	4,796ha （2024年度）	4,368ha （2030年度）
8	主伐・再造林面積	104ha （2024年度）	175ha （2030年度）
9	能登地区（奥能登２市２町、中能登地区２市３町の合計９市町）の木材生産量の回復率	― （2024年度）	100％ （2030年度）
（２）気候変動への対応			
10	家庭版環境ISO認定家庭（エコファミリー）数	143,930家庭 （2025年度）	180,000家庭 （2030年度）
11	事業者版環境ISO、工場・施設版環境ISO登録事業所数	1,077事業所 （2025年度）	1,800事業所 （2030年度）

No	指標名	基準値	目標値
12 再掲	環境保全型農業の取組面積	9,662ha (2024年度)	18,000ha (2032年度)
13 再掲	主伐・再造林面積	104ha (2024年度)	175ha (2030年度)
14 再掲	能登地区(奥能登2市2町、中能登地区2市3町の合計9市町)の木材生産量の回復率	— (2024年度)	100% (2030年度)
(3)白山の魅力向上・発信強化			
15	白山の登山者数	3.8万人 (2024年度)	4.5万人 (2032年度)
16	白山国立公園施設等の利用者数	4.3万人 (2024年度)	4.8万人 (2032年度)
17	白山における自然体験活動者数	1.3万人 (2024年度)	1.5万人 (2032年度)
(4)自然を活用した復興推進			
18	「のとSDGsトレイル(仮称)」の創設	— (2025年度)	全線開通 (2032年度)
19 再掲	間伐等実施面積	4,796ha (2024年度)	4,368ha (2030年度)

3．生態系の健全性の回復

No	指標名	基準値	目標値
(1)生態系の維持・回復・創出			
20	県内の自然共生サイトの認定数	3か所 (2025年度)	13か所以上 (2030年度)
21 再掲	間伐等実施面積	4,796ha (2024年度)	4,368ha (2030年度)
(2)生きものの生態に配慮した取組の推進			
22	中山間地域で適切な管理に取り組む農地の割合	88% (2024年度)	94% (2032年度)
23 再掲	間伐等実施面積	4,796ha (2024年度)	4,368ha (2030年度)
24	クリーンビーチいしかわの参加者数	50,501人 (2024年度)	100,000人 (2030年度)
(3)希少種の保全と外来種対策			
25	「いしかわレッドデータブック」掲載の絶滅種	15種 (2025年度)	維持 (2030年度)
26	外来種リストの作成	— (2025年度)	作成 (2028年度)
(4)野生鳥獣の保護と管理			
27	イノシシによる農作物被害額	45百万円 (2024年度)	30百万円 (2032年度)

No	指標名	基準値	目標値
28	捕獲イノシシのジビエ利活用率	6.6% (2024年度)	10% (2030年度)
29	ツキノワグマによる人身被害件数	0件 (2025年)	維持 (2030年)
30	若手狩猟者(50代以下)の割合	51% (2025年度)	50%以上 (2030年度)

4．生物多様性に対する理解の促進・行動変容

No	指標名	基準値	目標値
(1)行動変容に向けた生物多様性の普及啓発			
31	「生物多様性」の言葉の理解度	37.9% (2025年度)	50% (2030年度)
(2)自然体験活動の推進			
32	いしかわ自然学校の年間参加者数	27,921人 (2025年度)	36,000人 (2030年度)
33	里山子ども園の累計参加園数	252園 [全体の65%] (2024年度)	276園 [全体の71%] (2030年度)

5．生物多様性を支える基盤づくりと国際的な情報共有・発信

No	指標名	基準値	目標値
(1)多様な人材の育成			
34	いしかわ自然学校のインストラクター数	290人 (2025年度)	330人 (2030年度)
(2)農林水産業を担う人材の育成			
35	農林水産業の新規就業者数	177人 新規就農者数 122人/年 新規林業就業者数 31人/年 新規漁業就業者数 24人/年 (2024年度)	230人 新規就農者数 150人/年 新規林業就業者数 40人/年 新規漁業就業者数 40人/年 (2032年度)
(3)ネットワークの構築			
36 再掲	いしかわ版里山づくりISOの認証団体数	349団体 (2025年度)	400団体 (2030年度)
(4)国際的な情報共有・発信			
37	国際認定地域(世界農業遺産、ユネスコ世界ジオパーク、ユネスコエコパーク)の継続認定	3件 (2025年度)	維持 (2030年度)

資料２．石川県生物多様性戦略ビジョン改定の経過

2025年	７月10日	第１回石川県生物多様性戦略ビジョン改定委員会
	８月１日	県民意識調査の実施（～８月15日）
	10月22日	第２回石川県生物多様性戦略ビジョン改定委員会
	11月４日	令和７年度石川県環境審議会自然共生部会
2026年	３月11日	第３回石川県生物多様性戦略ビジョン改定委員会
	５月21日	令和８年度石川県環境審議会自然共生部会
	６月24日	パブリックコメントの実施（～７月14日）
	７月31日	「石川県生物多様性戦略ビジョン」改定

資料３．石川県生物多様性戦略ビジョン改定委員会委員名簿

＜2026年７月策定時＞　　（敬称略、50音順）

区分	氏名	役職名
委員長	一恩　英二	石川県立大学生物資源環境学部環境科学科教授
委　員	井村辰二郎	株式会社金沢大地代表取締役
〃	香坂　　玲	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
〃	竹田　純一	株式会社森里川海生業研究所共同代表
〃	多田真由美	一般社団法人春蘭の里代表理事
〃	中野真理子	石川県立自然史資料館副館長
〃	西原　昇吾	中央大学理工学部兼任講師
〃	渡辺　綱男	国連大学サステイナビリティ高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット 客員リサーチフェロー

資料４．石川県環境審議会自然共生部会委員名簿

＜2026年７月策定時＞　　（敬称略、50音順）

区分	氏名	役職名
部会長	一恩　英二	石川県立大学生物資源環境学部環境科学科教授
委員	青山　邦洋	石川県漁業協同組合専務理事
〃	尾島　恭子	金沢大学融合研究域融合科学系教授
〃	神谷　隆宏	福井県立大学恐竜学部教授
〃	神谷ますみ	(公財)いしかわ女性基金評議員
〃	橘　　順吉	石川県森林組合連合会代表理事副会長
〃	中村　明子	弁護士
〃	中村　浩二	金沢大学名誉教授
〃	番匠　未樹	石川県青年団協議会副会長
〃	古池　　博	石川県地域植物研究会長
専門委員	大井　　徹	石川県立大学特任教授
〃	香坂　　玲	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
〃	白川　郁栄	日本野鳥の会石川代表
〃	辻森　金市	(一社)石川県猟友会長
〃	三谷　幹雄	金沢ふるさと愛山会会員
〃	村山　和臣	(公社)石川県観光連盟理事

資料５．執筆協力者

本文「第３章　石川県における生物多様性の現状と課題」の執筆にご協力いただいた方々

※石川県生物多様性戦略ビジョン改定委員会及び石川県環境審議会自然共生部会委員は除く。

（敬称略、50音順）

石山　尚樹、北川　正司、坂井　恵一、白井　伸和、高木　政喜、高橋　久、竹田　伸一、出島　大、
栂　典雅、富沢　章、中川　富男、間明　弘光、八神　徳彦、矢田　豊、山本　邦彦

資料６．県民意識調査結果概要

【調査概要】

調査期間：2025年８月１日～８月15日

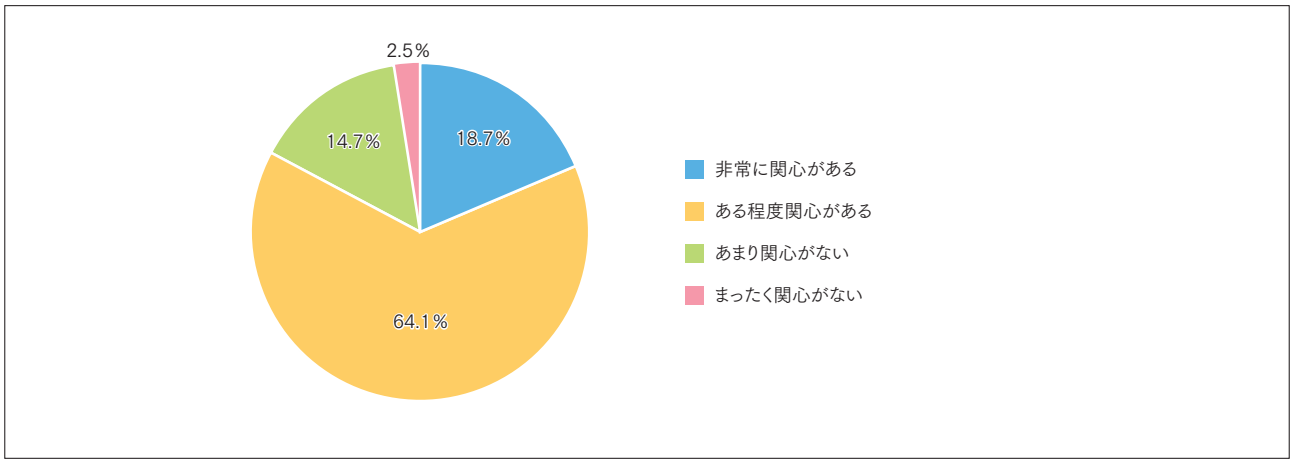
対象者数：474人（県政モニター）

回答者数：401人（84.6％）

【結果概要】

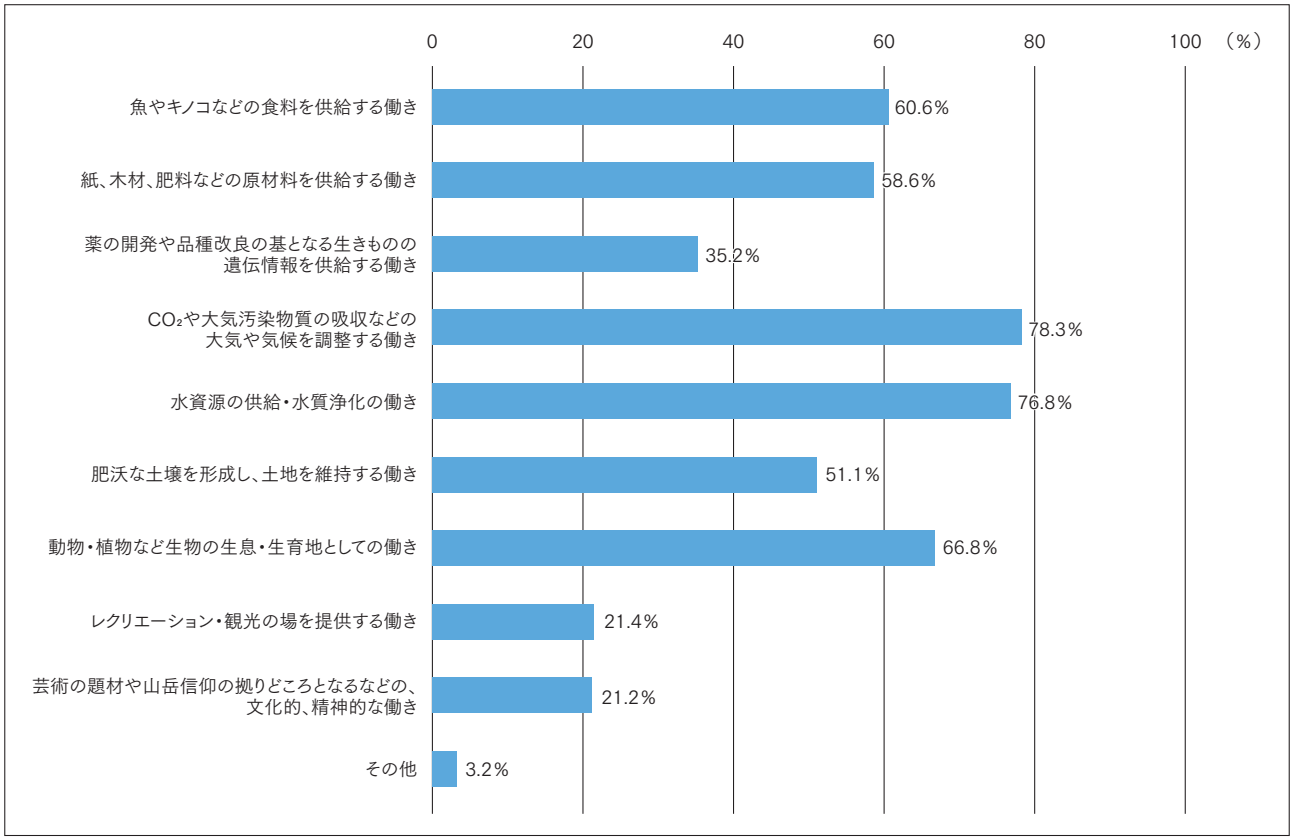
設問１．あなたは、自然について、どの程度関心がありますか。あてはまるものを１つ選んでください。

・自然に「関心がある」（非常に関心がある+ある程度関心がある）と回答した人の割合が高い。



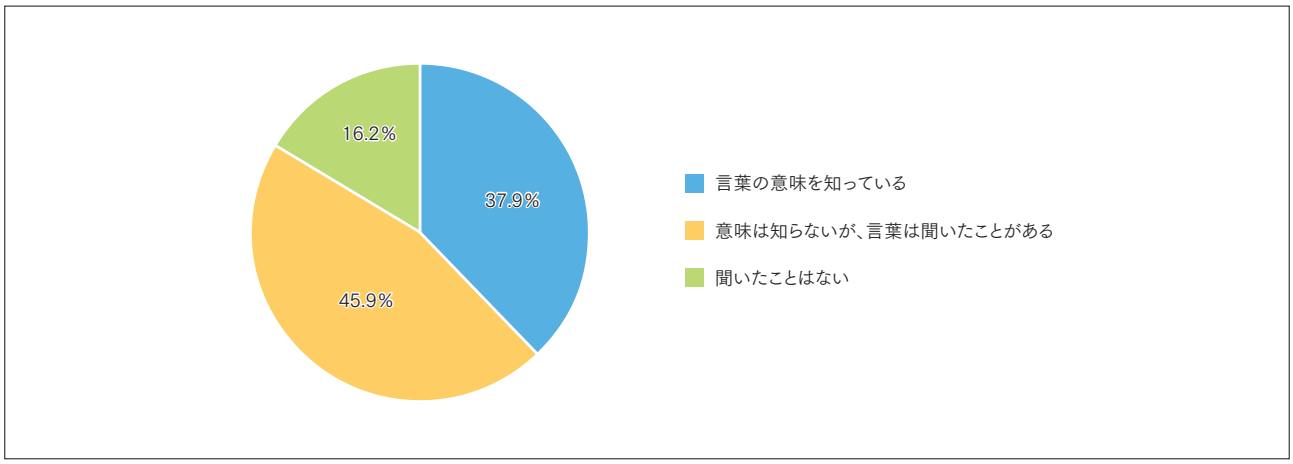
設問２．あなたは、私たちの生活にとって、どのような自然の働きが重要だと考えますか。あてはまるものを全て選んでください。

・私たちの生活にとって重要と考える自然の働きとして、「CO_2や大気汚染物質の吸収などの大気や気候を調整する働き」と回答した人の割合が高い。



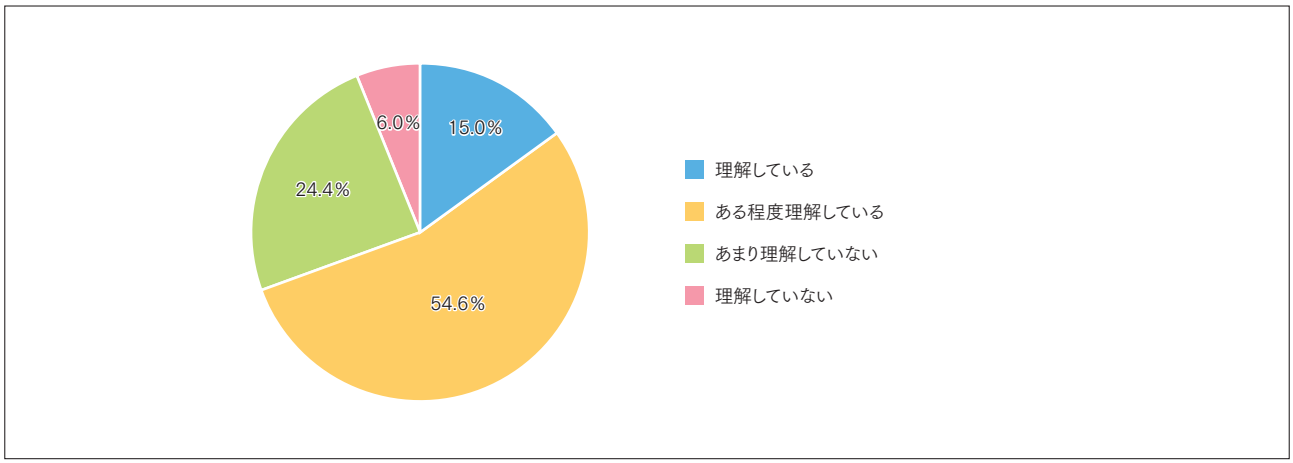
設問３．あなたは、「生物多様性」の言葉の意味を知っていますか。あてはまるものを１つ選んでください。

・「生物多様性」という言葉を「聞いたことがある」（言葉の意味を知っている＋意味は知らないが、言葉は聞いたことがある）と回答した人の割合が高い。



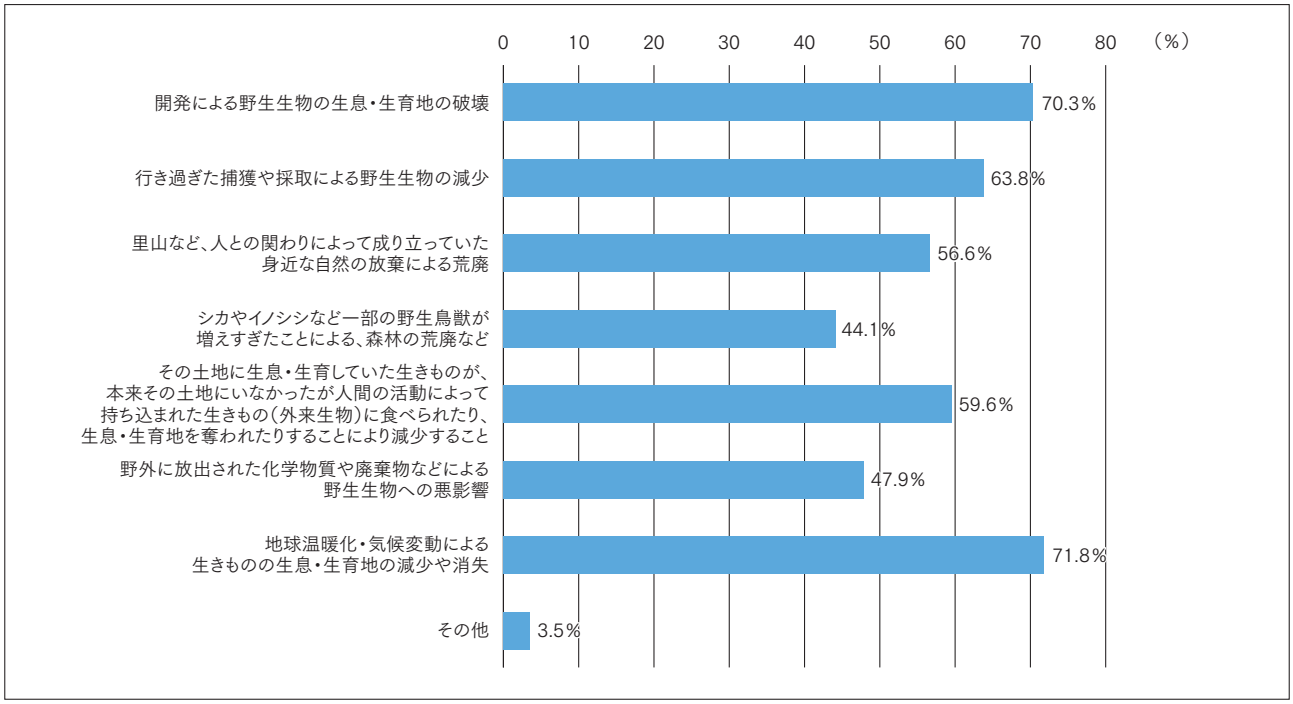
設問４．地球上には多様な生きものが存在し、これらの生きものが、例えば食べる・食べられるなど、お互いを利用し、支えあうといった繋がりの中で生きていることを「生物多様性」と呼びます。あなたは、生産と消費が生物多様性に影響を与えることを理解していますか。あてはまるものを１つ選んでください。

・生産と消費が生物多様性に影響を与えることを「理解している」（理解している+ある程度理解している）と回答した人の割合が高い。



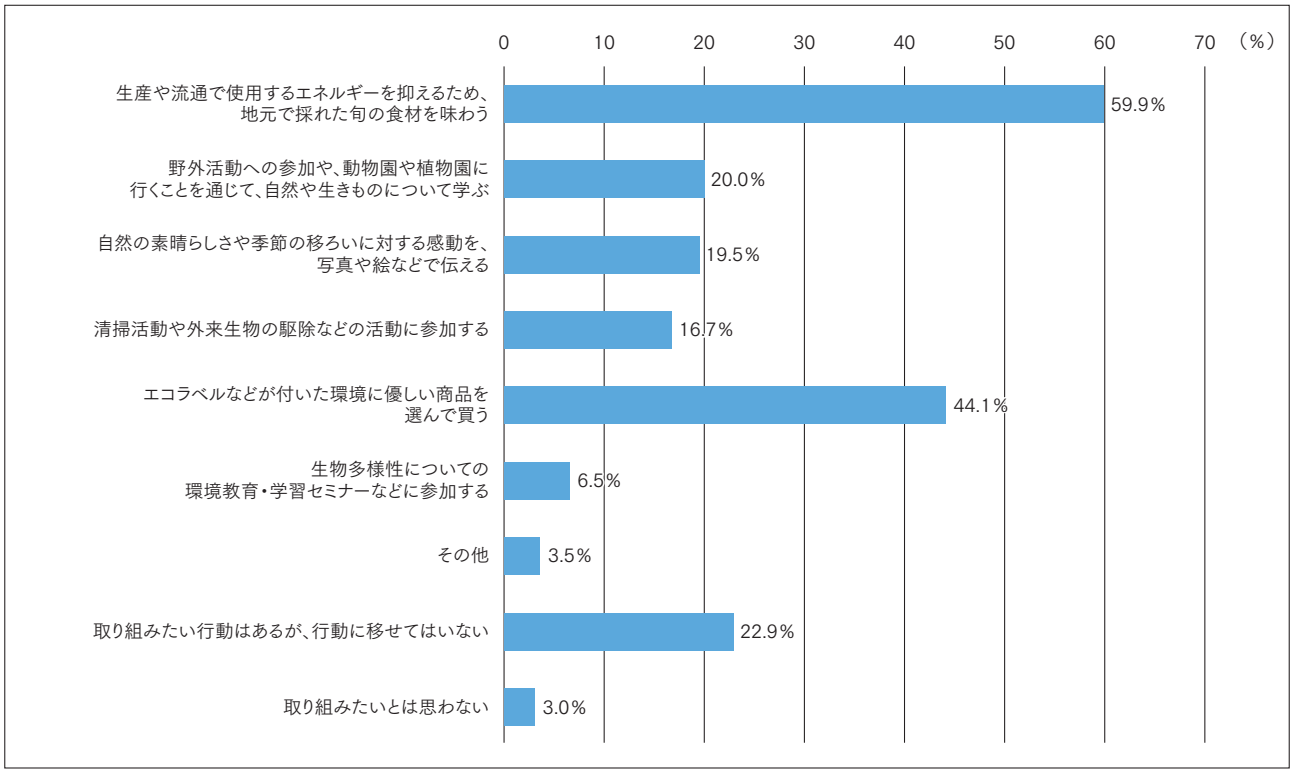
設問５．生物多様性は、食料や木材、薬など、私たちの生活に欠かすことのできない様々な恵みをもたらしていますが、今、人間の活動などの影響によって危機に直面しています。あなたは、生物多様性の危機を招く要因について、どのようなことに関心がありますか。あてはまるものを全て選んでください。

・生物多様性の危機を招く要因として関心のあることとして、「地球温暖化・気候変動による生きものの生息・生育地の減少や消失」と回答した人の割合が高い。



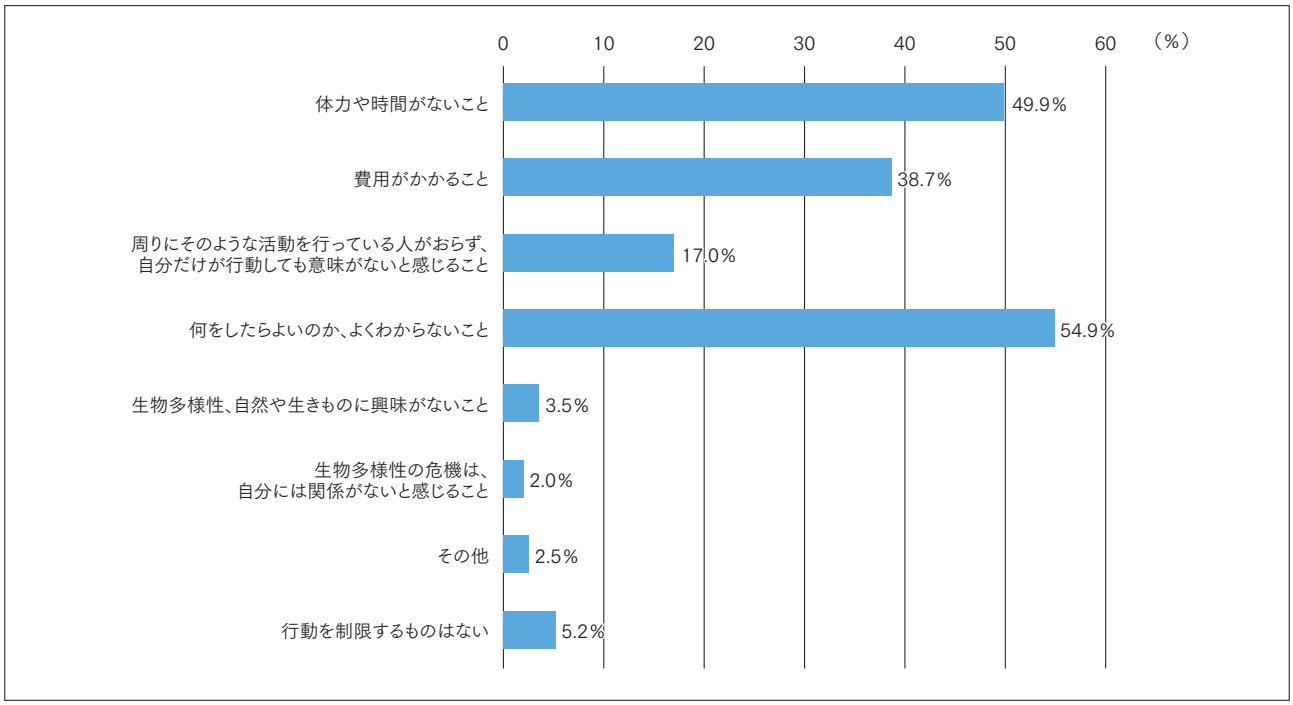
設問６．あなたは、生物多様性を守るための行動として、次にあげる行動の中で既に取り組んでいることはありますか。あてはまるものを全て選んでください。

・生物多様性を守るための行動として既に取り組んでいることとして、「生産や流通で使用するエネルギーを抑えるため、地元で採れた旬の食材を味わう」と回答した人の割合が高い。



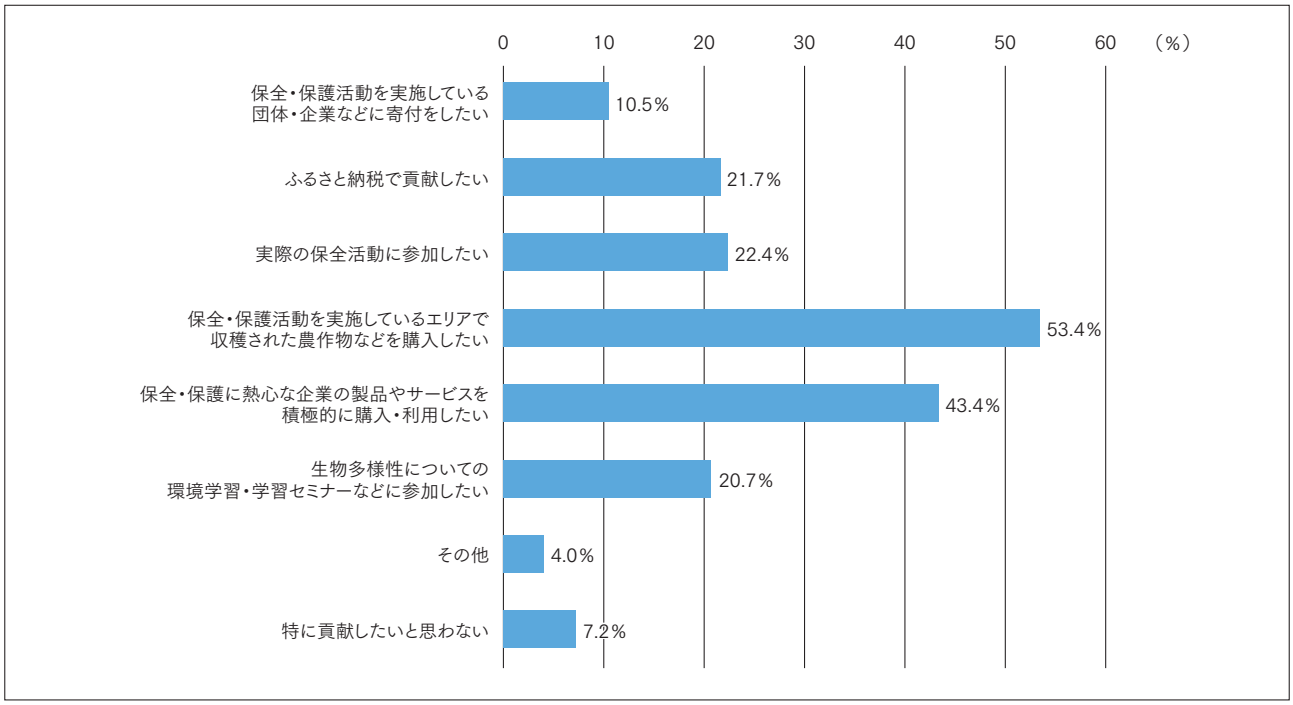
設問７．あなたの、生物多様性を守るための行動を制限することは何ですか。生物多様性を守るための行動に取り組んでいる場合でも、行動の支障になると感じていることを、お答えください。あてはまるものを全て選んでください。

・生物多様性を守るための行動を制限することとして、「何をしたらよいのか、よくわからないこと」と回答した人の割合が高い。



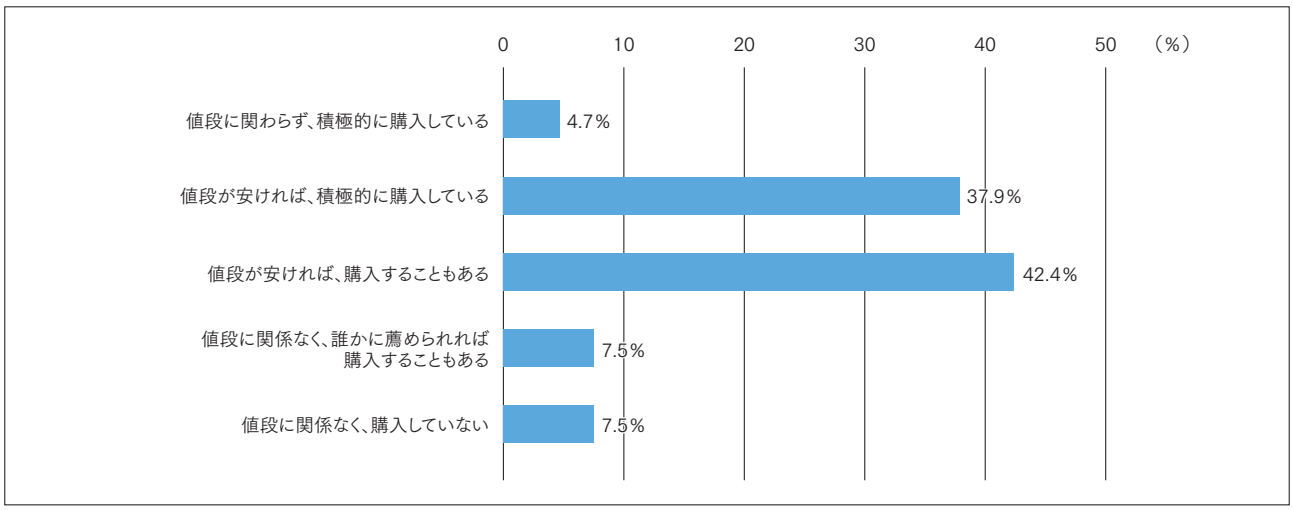
設問８．自然や生きものを守るために、あなたはどのような取り組みで貢献したいと思いますか。あてはまるものを全て選んでください。

・自然や生きものを守るために貢献したい取り組みとして、「保全・保護活動を実施しているエリアで収穫された農作物などを購入したい」と回答した人の割合が高い。



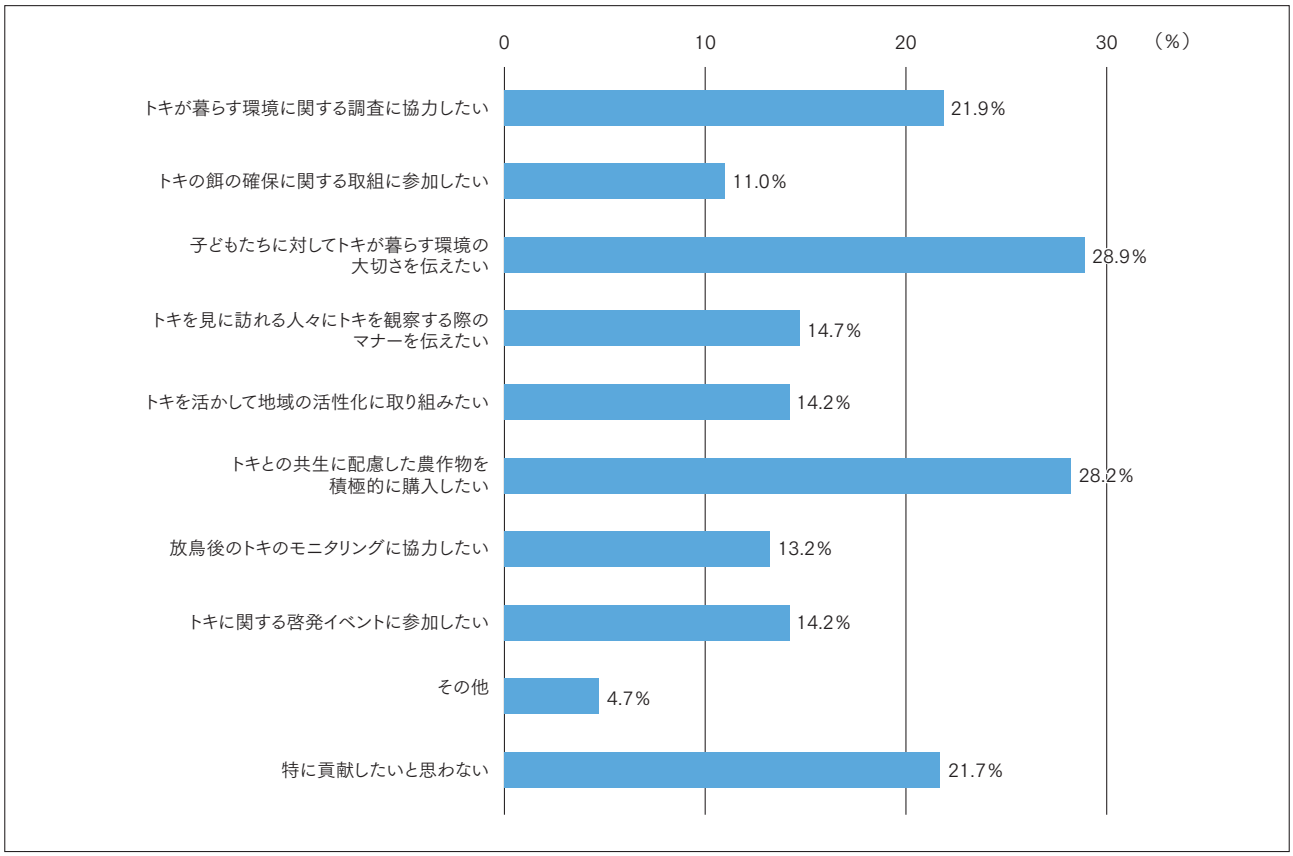
設問９．環境に配慮されたマークのある食品・商品を購入していますか。あてはまるものを１つ選んでください。

・環境に配慮されたマークのある食品・商品の購入について、「値段が安ければ、購入することもある」と回答した人の割合が高い。



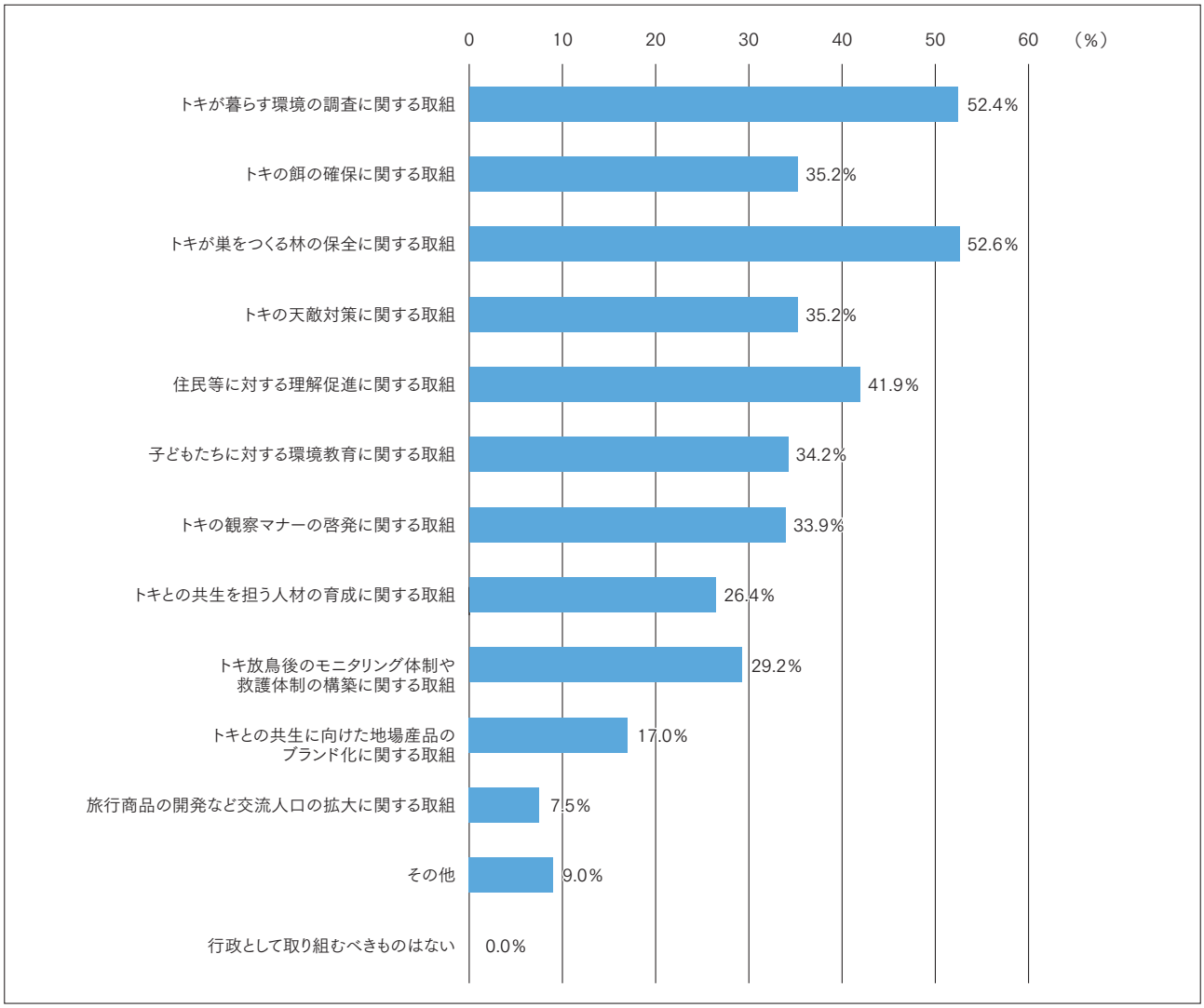
設問10. 2025年２月に、能登地域がトキの放鳥地に選定されました。2026年上半期中にトキが能登地域に放鳥されることを受け、トキとの共生に向けて、あなたはどのような取り組みで貢献したいと思いますか。あてはまるものを全て選んでください。

・トキとの共生に向けて貢献したい取り組みとして、「子どもたちに対してトキが暮らす環境の大切さを伝えたい」と回答した人の割合が高い。



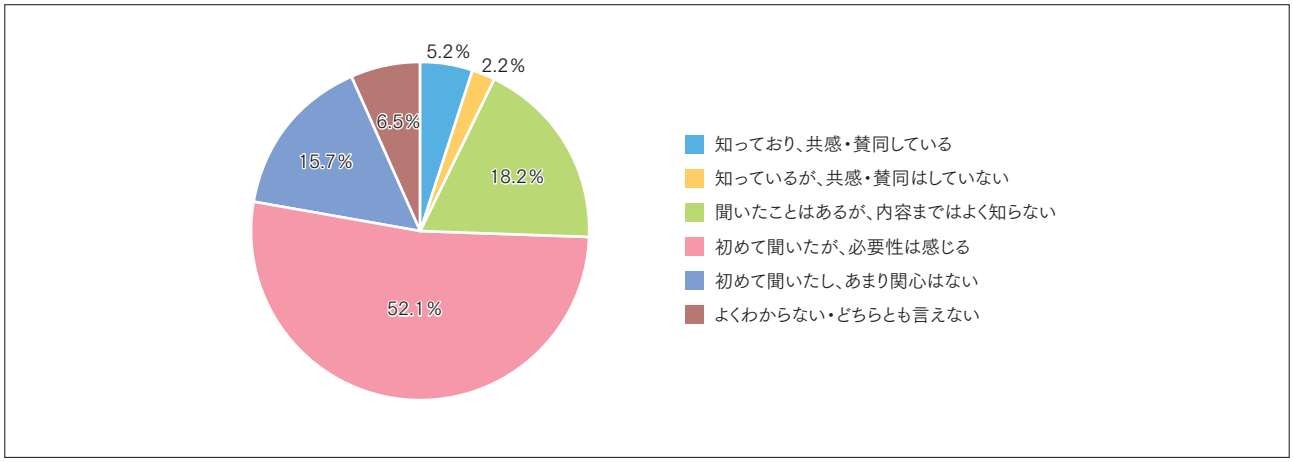
設問11. あなたは、トキとの共生に向けて、行政が取り組むべきだと思うものはありますか。あてはまるものを全て選んでください。

・トキとの共生に向けて、行政が取り組むべきだと思うものとして、「トキが巣をつくる林の保全に関する取組」と回答した人の割合が高い。



設問12. 2021年６月に日本も参加した主要７か国首脳会議で、生物多様性の損失を食い止め、2030年までに世界の陸と海の30％を保全・保護することを目標として定めました。(30by30)。この目標(30by30)について、あてはまるものを１つ選んでください。

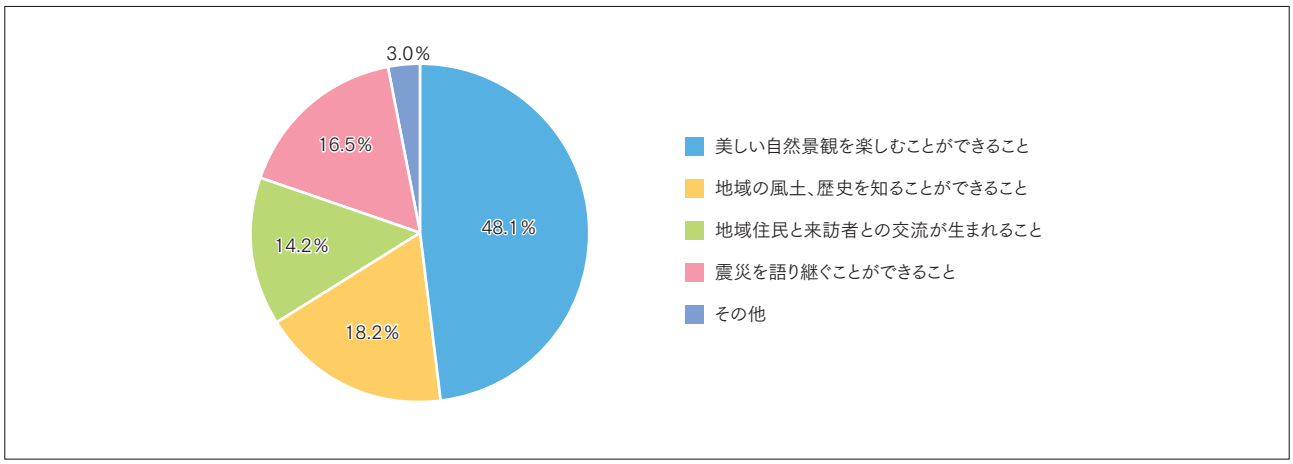
・「30by30」について、「初めて聞いたが、必要性は感じる」と回答した人の割合が高い。



設問13. 2024年１月１日に「令和６年能登半島地震」が発生しました。石川県では復興の象徴として、能登の豊かな自然や風土に触れ、魅力を体験することができる自然歩道(トレイル)を創設し、環境学習の推進や交流人口の拡大につなげていくこととしています。

あなたは、本県でのトレイル創設にあたり、どのようなことを期待しますか。あてはまるものを１つ選んでください。

・トレイル創設にあたり期待することとして、「美しい自然景観を楽しむことができること」と回答した人の割合が高い。



資料７．石川県生物多様性戦略ビジョンの改定に向けた県民ワークショップ実施結果

１．実施目的

2011年に策定した石川県生物多様性戦略ビジョン（以下「戦略ビジョン」という。）の改定に向け、地域の方の声を聞き、現状・課題を共有し、それらを戦略ビジョンに反映する。

また、県民が戦略ビジョンを身近に感じ、行動の変容に繋がるよう意識の醸成を図る。

２．実施概要

金沢、能登、加賀、白山の４地域でワークショップを実施し、延べ71名が参加した。

ワークショップでは、講師による講演のほか、グループワークを行い、参加者が大切にしたい自然や地域の課題、将来の姿などについて検討し、「いしかわみんなの自然マップ」を作成した。

＜講演内容＞

○金沢地域（2025年11月13日）

「石川県金沢地域の生物多様性の特徴について～日本庭園と鎮守の森にみる優れた都市自然～」

講師：フアン・パストール・イヴァールス 氏

（国連大学サステイナビリティ高等研究所　いしかわ･かなざわオペレーティング･ユニット研究員）

○能登地域（2025年11月24日）

「石川県能登地方における生物多様性の特徴と今後の課題」

講師：柳井　清治 氏（石川県立大学特任教授　石川県立自然史資料館館長　併任）

○加賀地域（2025年11月26日）

「加賀の自然史～梯川の魚類の生息環境～」

講師：高栄　晋平 氏（小松市経済環境部環境推進課）

○白山地域（2025年11月30日）

「世界の水教育拠点としての白山ユネスコエコパーク・
白山手取川ユネスコ世界ジオパークの可能性」

講師：坂本　貴啓 氏（金沢大学講師）



いしかわみんなの自然マップ




グループワークの様子